

	ファーストレフェリー	セカンドレフェリー	スコアラー・アシスタントスコアラー
ボールイン、アウト (ボールマークプロトコール)	<p>① ボールが砂(地面)に落ちた瞬間にホイッスルをする。</p> <p>② ライン判定は、レフェリースタンドからイン、アウトの判定基準を持ち、最初にファーストレフェリーが判定し、その後に担当のラインジャッジを素早く確認して、最終判定をする。ラインに触れたかどうか確認できないときには、ファーストレフェリーとチームがボールマークプロトコールを行うことができる。</p> <p>③ ラリーの判定後、チームがボールマークプロトコールを要求するかどうかを話し合うための数秒を認めて良い。また、チームが判定を確認せずにサービスゾーン等次のポジションに移動した後ボールマークプロトコールを要求した場合、コートスイッチやサングラスのワイピング等の行為の後を除き、チームがレフェリーの判定を認識した後5秒以内であれば許可して良い。</p> <p>④ ボールマークプロトコールを行う場合は、素早く開始する。時間が空くと選手がアピールする可能性がある。ボールマーク側のコートの選手をボールマーク付近から遠ざけてから判定を行う。また、ボールマークと反対側コートの選手がネットを越える行為があった場合は、ボールマークプロトコール終了後にラリーの判定をしてから、無作法な行為(ペナルティ)としてレッドカードを示して罰則を適用する。</p> <p>⑤ 審判の判定が遅れば、アピールの原因となるので、タイミングよく判定をする。</p> <p>⑥ ラインジャッジの判定が間違っていたときは、片方の手で軽く抑える動作をしてから判定を覆さなければならない。タイミングよくラインジャッジの判定を抑えてから最終判定を示す(ボールコンタクトの場合も同様)。</p>	<p>① ボールイン、アウトの判定は、基本的に行わない。状況に応じてファーストレフェリーを補佐するが、ネットから目線を早く移動させてはならない。</p> <p>② ファーストレフェリーがボールマークプロトコールを行っているときは、ボールマークと反対側コートの選手がネットを越えることがないように監視し、越えそうな場合は制止する。越えた場合にはファーストレフェリーに知らせる。</p> <p>③ 選手が「C」のシグナルを示したことを確認し、ファーストレフェリーが気づいていない場合(必要であればホイッスルして)シグナル等で伝え、ボールマークプロトコールを許可する。</p> <p>④ ボールマークプロトコールの要求を予測し、コートスイッチのホイッスルが早過ぎないように注意する。</p> <p>⑤ 試合再開前に、スコアシートとすべてのスコアボードが正しく、選手が正しいローテーションにあることを確認しなければならない。ボールマークプロトコールが成功となり得点が入り替わったり、ラリーがリプレイされたりする場合は、特に注意すること。</p>	<p>① ボールマークプロトコールは、スコアシートの備考欄に記入する。</p> <p><記入例> 10:02:17, 第3セット0:1, Bチームサービス, Aチームが「BMP」を要求。結果:成功 10:02:34 競技再開(所要時間 00:00:17)</p>
ボールが砂(地面)に落ちる寸前の状態	<p>① 目の位置を下げて見る。確認できないときには、セカンドレフェリー、ラインジャッジを確認してからホイッスルすべきである。</p> <p>② 試合前に合図の仕方について、審判団で念入りに打ち合わせしておく必要がある。</p>	<p>① ボールが砂に触れて、ファーストレフェリーがその接触を確認できない場合は、ホイッスルをして判定する。</p>	